世界青年の日に向けての教皇メッセージ

教皇様は、2004年に開かれる第19回ワールド・ユース・デイ(世界青年の日)のテーマは『キリストを見せてください』、2005年にドイツのケルンで開かれる予定の第20回大会のテーマは『礼拝するために来ました』になったことも併せて発表した。

ョハネ・パウロ二世教皇は、若者に向かって、「一人ぼっちの時、人生で失敗したり落ち込んだりした時、

大人社会や仕事に順応するために困難を感じる時、家族の離散や死別の悲しみにある時、戦争の暴力や罪のない人々の死を経験する時」、独でしたいと強調した。ご自分ので若者では、あなたのもので若者をのですない。「私の人生には、神のりまし、「私のと助けが常にありました」と述べた。

また、キリスト者は常に何処にいて もキリスト者であるようにと、若 を鼓舞した。なぜなら、「キリスト を鼓舞した。なけれる は単なる意見ではなく、(スト のです!キる がはとのものですられるがり、 はて、ロザリオを祈り、 はてキリストを知り、 はでするように若者を招いた。 「自分だけがロザリオを祈ることを

恥ずかしがらないでください。あな た方が学校に行く途中、大学や職場 に向かう時、街中で、電車の中で、 祈る習慣を身に付けてください。さらに、あなたたちの仲間や組織、社 会活動でも祈る習慣が定着するよう に。家で祈るように勧めることをた めらってはいけません | 。

「イエス様だけが、あなたたちの心の奥底をご存じです。人類は若者の証しを、今すぐ必要としています。 世間の流れに逆らい、救い主である神への信仰を力強く声高らかに宣言する若者を必要としているのです」。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shijie-qing-nian-nori-nixiang-ketenojiaohuang-metsusezi/ (2025/12/13)